



山王台だより2月号

令和2年1月31日

横浜市立山王台小学校
〒235-0016
横浜市磯子区磯子5丁目2-1
TEL.045(755)1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

給食週間の取組を終えて～子どもの頃の食卓の風景～

副校長 岡崎 陽子

大寒を過ぎ、寒さが一段と厳しくなってきました。風邪の流行る時期ですが、睡眠・食事・運動を意識し、元気に冬を過ごしてほしいと思います。

さて、1月下旬に行った給食週間では、給食委員会の児童が、好き嫌いをなく食べることや給食を作るために関わってくださった方々に感謝して食べることをテーマにした劇を発表しました。各学級では、給食の残量を減らすことを目的に、給食委員会が作成した「もぐもぐカード」の活動に取り組んだり、調理員さんに感謝の気持ちを表す寄せ書きを作成したりしました。

文部科学省では、毎年、1月24日から1月30日までの1週間を「全国学校給食週間」としています。戦争により中断されていた学校給食が昭和22年12月24日より再開され、それ以来12月24日を「学校給食感謝の日」と定めていましたが、冬休みと重なるため1月24日からの1週間としました。学校給食は、子ども達が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。学校給食週間では、給食の意義や役割について、児童や教職員、保護者や地域の方々の理解を深め、関心を高めるため、全国で様々な取組がなされます。

食事を1日3回とすると、給食は3分の1回分、残りの2回は家庭の食事ということになります。自分の子どもの頃の食卓の風景を思い起こしてみると、野菜や魚の煮物を中心としたおかずが多かったように思います。食べる時に親に口うるさく言われていたことは、次のようなことでした。

「出されたものは、残さずきれいに食べなさい。」

「世界には思うように食べられない人もいるのだから、食べられること自体をありがたいと思いなさい。」

そのような親でしたが、それぞれに苦手なものがありました。父は、カボチャ。戦争中にお米の代わりにカボチャが出る事が多く、カボチャを見るとその頃を思い出して、食が進まなくなるのだそうです。母は、肉類。子どもの頃は滅多に食べられないものだったので、苦手になってしまったのだそうです。

食卓の風景でもう一つ思い出すことは、食事中はテレビを付けなかったことです。番組の途中でも消してしまいます。おかげで、食事中は、会話が弾んでいました。私は3人きょうだいですが、それぞれが話を聞いてほしくて、口々に話していたように記憶しています。にぎやかな食卓でした。

ところで、今の我が家の食卓の風景はというと、平日は家族全員が揃って食事をとることがほとんどなく、食事中は常にテレビがついています。会話の内容もテレビに関する事が中心です。食べ物に関心をもったり、一日の出来事を話したりするような食卓とは程遠いものになっています。

しかし、先日、我が家の食卓について息子に聞いてみたところ、こんな答えが返ってきました。

「サラダがワンパターンだから、もう少し工夫すると思う。例えば温玉をのせるとか。」

よし、これをきっかけにしてみよう！サラダに何かトッピングしていつもと少し違う味を提供したら、食べ物への関心とテレビ以外の会話が生まれるかもしれません。給食週間の取組は終わりましたが、我が家の取組はこれからです。ご家庭でも給食週間をきっかけにふだんの食卓を見直してみたいでしょうか。